

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第127回 「共通テスト」直前4週間大作戦！

ここまで3回にわたって「共通テスト」について分析と対策を考えてきましたが、もう、年末が近づいてきました。年末年始は受験生にとって、

国公立大2次試験・私大入試対策の絶好の時期であるとともに、共通テストが目前に近づいた時期

でもありますね。

受験勉強に専念できる年末年始の4週間、この共通テストまでの最後の28日間でできる「共通テスト」対策を考えてみましょう。たった28日間で？と思う人もいると思いますが、まだまだ時間はあります。



① 不安な分野があれば…

もし、どうしても不安な分野が残ってれば、1週間で徹底的に集中対策。毎日4時間7日間ぐらいで、かなり得意分野にできますよね。

複数の分野が苦手でもまずその中で

最も苦手な一つを得意分野に。

一つ分野でも、不安がなくなれば、得点力はぐんとアップします。

② 「共通テスト」に手が出ない、問題集も難しすぎる…

「共通テスト」は、始まったばかりの新しいタイプのテストだから、見慣れない問題が多いのは当然ですね。それに「共通テスト」対策の問題集は、少し難しすぎるものもあります。これは入試センターが「共通テスト」の事前調査のために行った「試行調査」の問題がかなりレベルの高い問題だったのでそれに引きずられたのでしょうか。しかしそのようなことで対策ができないと大変です。

もし、「共通テスト」対策に手が出ないという生徒がいたら、

まず、「センター試験」の過去問をやってみる

のもよいと思います。「共通テスト」の基礎問題のトレーニングとなりますし、

マーク式の誘導に仕方を学び、自分の弱点分野をチェックし、時間の厳しさを体感する

ことになりますね。「共通テスト」には「センター試験」のタイプの問題も半分ぐらいは出題されています。これだけでも、平均点は確保(?)、志望校によっては十分な対策となるかもしれません。

さらにエンジンがかかれば、共通テスト(2回分ありますね)や対策問題集に挑戦する、というプランはいかがでしょうか。

③ 見たことのないような長い問題文に不安が…

この講座の前回までの3回(第124回～第126回)で取り上げた、「共通テスト」の特色と対策を今一度確認してみましょう。問題と関係のないような文の中に、解法のヒントが示されていること、少なくありません。むしろ「これは解きやすいな」と思えるまで、ゆっくりと問題を分析してみてください。不安は遠のくと思います。

もちろん、文の長さは時間の厳しさに係わることなので、この点には要注意です。

④ データの分析はどうすれば…

この分野は、国公立の2次試験には（一部の大学を除いて）ほとんど出題されません。一方、「共通テスト」では、必ず出題されます。それも、私大文系に出るような単なる計算だけの問題ではありません。グラフや表などのデータを分析、判断が必要なものが出されます。高校の教科書にはないような出題も見られます。しかしこの傾向は、これまで行われてきた「センター試験」の流れの上にあります。

センター試験の過去問などを素材にデータの読解・分析の練習をする

ことが有効ですね。

⑤ 数学Aの3分野のうち選択2分野は…

数学Bの分野の選択は、高校での履修の関係上、すでに決めている受験生が多いと思いますが、数学Aの分野で、「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」からの選択（3問中2問の選択）に迷っているか試験場で決めようと思っている受験生も少なくありません。

「共通テスト」は時間との勝負、試験場でどの問題を選択しようかと迷っている暇はない

はず。自分が高得点できる2分野を、過去問などを参考に調べておくことです。余程のことがない限り、迷わず選択するとよいでしょうね。

⑥ 計算ミスを防げない…

今更、計算ミスは防げない、とあきらめるのはまだ早いのです。計算ミスの原因のいくつかはすぐに解消できます。よくあるケースは、計算を乱雑に書いて余白がなくなりそれまでの計算の一部を消してそこに計算を続ける、というものです。乱雑に書くことで計算ミスが多発し、計算の一部を消すことで検算ができなくなるのです。誤答を招く最も多い要因ですね。計算やグラフなどはできるだけコンパクトに整然と。余白の量も考えておくとういと思います。

⑦ 予行演習は…

予行演習として時間を測り、同じ時間で、1回分の問題を解いてみることで、時間感覚を身に付けるのですね。それも、解答時間をそろえるだけでなく、実際の試験の日は昼食を挟むのでそれも含めると同じ時間帯で予行演習です。その前後の体調なども確認し本番に備えれば、万全ですね。

⑧ 最後に、当日の大作戦！～本番で、予定する得点が難しく頭が真っ白に…

多くの受験生は、志望校や科目の関係から、数学では少なくとも何点は取らなければ、という各人のハードルがあります。試験中、思ったよりうまく解けずに予定のラインは難しいと頭が真っ白になることがあるかもしれませんね。そうしたときには、焦ってはいけません。

数学の平均点は年により10点前後は変動する

ことは起こり得ます。難しい問題の年かもしれません。焦りそうなら、そうした可能性があることを思い出して、思い切って

ハードルを10点下げてみましょう。

焦って何もできなくなるのではなく、落ち着いてさらに少しでも得点を重ねていく方がよいですよ。